

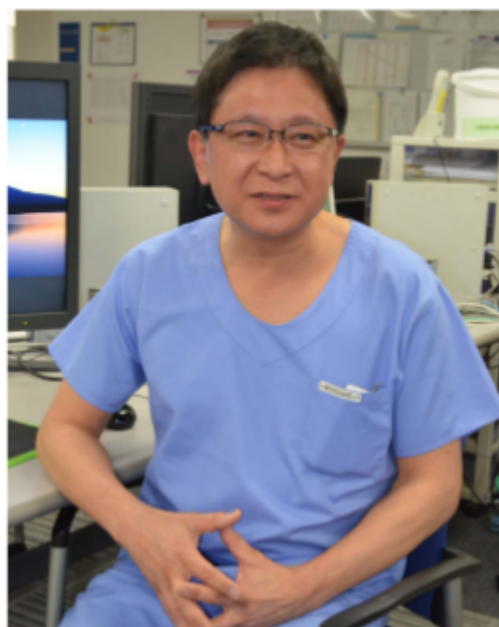
開西病院の林副院長に聞く

痔の治療にジオン注射

痔(じ)は日本人の3人に1人が罹患(りかん)しているといわれる。しかし「痔の治療は恥ずかしい」と放置するケースが多いという。患部を切る手術ではなく、注射で治す「ジオン4段階注射療法」について、開西病院(帯広市西23南2)で肛門外科、消化器外科を担当する林淳也副院長(56)に聞いた。

(松村智裕)

「痔の症状や種類は、直腸肛門部の血行が悪くな



痔のジオン4段階注射療法について説明する林副院長

り、血管が膨れ上がることから、痔核という。外痔核と内痔核があり、外痔核は肛門の外側にできるのはつきりわかる

が、内痔核は肛門の内側の粘膜部分にできる。最初は痛みも感じないため、把握しづらい。痔の患者は潜在的に多いが、肛門の疾患なので恥ずかしい気持ちがあり、よっぽどひどくならないと治療に来ない場合が多い。

―診察のタイミングは。
排便時に出血した時点で通院することが望ましい。痔以外にも消化器官からの出血も考えられる。出血は痔の最初の症状。内痔核が大きくなると排便時に自然と出て、さらに悪化すると飛び出して戻らなくなる。これがいぼ痔といわれ、内科的治療では治らなくなる。

痛みなく出血も少なく

―効果的な治療法は。
いぼ痔などには「ジオン4段階注射療法」を行う。痔を切る手術とは違い、痔自体と痔の周辺に薬剤を投与し、薬の成分で血管を収縮させて止血し、痔を小さくする。入院はほとんどが1泊2日と期間が短い。手術に比べて、痛みがなく、出血も少ない。手術が怖いと感じる人でも安心して治療できる。

―痔を予防するには。
トイレで強いきむと、うっ血や出血をきたすことがある。座りっぱなしもよくない。酒や辛い食べ物などの刺激物も控えめにしてほしい。